

令和7年度 国語 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

4年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。また、基礎・活用ともに目標値・区平均・全国平均を下回った。領域別では、「読むこと」の領域では、正答率が区平均よりわずかに下回ったが、目標値を上回った。一方では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において正答率が目標値よりも大きく下回った。問題の内容別にみると、漢字の読みは目標値・区平均を上回った。

5年生：校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。また、基礎・活用ともに目標値・区平均・全国平均を下回った。領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は正答率が目標値と同程度であるが、その他は全て目標値と区平均を下回った。特に「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」において、目標値と区平均を大きく下回っていた。内容別に見ると漢字の読みだけが上回った。

6年生：校内平均正答率が目標値・全国平均を上回った。しかし、区平均は下回った。基礎・活用でも同様に、正答率が目標値・全国平均を上回ったが、区平均は下回った。領域別で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」において、目標値・区平均を上回っている。一方、「我が国の言語文化に関する事項」と「書くこと」において、目標値・区平均・全国平均を下回った。内容別に見ると、「話し合いの内容を聞き取る」「漢字の読み書き」「物語の内容を読み取る」が目標値を上回った。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
5年生は目標値を上回ったが、4・6年生は下回った。4・6年生は漢字の読み書きは目標値を上回っているか、同程度だった。5年生は漢字の読みは目標値を上回ったが、漢字の書きは下回った問題が多かったため、漢字の書き取りにも課題が見られた。言葉の学習においては、各学年目標値を下回っているものがあるため、習熟が必要である。	4・6年生は物語や説明文の内容を読み取ることは、目標値を上回っているか、同程度の正答率であった。5年生は物語では目標値と同程度の正答率であったが、説明文は目標値を下回った。報告文や文章を書く問題では、各学年ともに目標値を下回っている。段落構成を整えて文章を書くことに課題が見られる。	4・5年生は指定された長さで文を書くこと、自分の考えを明確にして書くことや意見を判断して書く問題に無解答が多い。

課題<今回の調査結果から>

○主語と述語の関係や修飾語などの言語の学習に課題が見られるので、繰り返し学習をすることで定着を図るようにする。

○段落構成を意識したり、指定された長さで文を書いたりすることに課題があり、記述式の問題において無解答の児童が多く（4年生 30.2％・5年生 26.5％）、主体的に取り組む態度を育てる工夫が必要である。

○各学年文章を書くことに課題が見られるので、段落構成の組み立て方や文章の書き方を指導し、文章を書く習慣をつける必要がある。

○説明文において、叙述を基に文章の内容を捉えたり、段落相互の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約したりする力に課題が見られるので、段落構成を捉え、文章の内容を丁寧に読み取る学習を展開する必要がある。